2006年度夏期実態調査（川崎）概要

宮嵜　晃臣

テ ー マ：川崎市都市再生・産業再生構想等について

期　　間：2006年8月2日(水)～8月3日(木)

参加人員：１１名

訪 問 先：川崎市ゼロエミッション工業団地

（川崎エコタウン会館、株式会社三光精工、コアレックス株式会社　東京工場）川崎市川崎区水江町

ＮＰＯ法人川崎市民石けんプラント　川崎市川崎区塩浜

8月2日(水)午後1時､川崎市ゼロエミッション工業団地内の川崎エコタウン会館を訪問し、ゼロエミ工業団地の説明を受ける。同工業団地は国の特殊法人である環境事業団の制度を活用し共通事業として運営されており、敷地面積は77,464㎡(企業専用用地としては53,855㎡)、現在の組合員数は12社（金属加工業、製糸業、鍍金業、鍛造業、プレス等）を数え、ここに立地する企業要件として以下の5点が掲げられている。

・参加企業自体が環境基本方針を持ち、団地の目指す方向に賛同する企業であること。

・発生する環境負荷をその排出基準などにより、さらに高い目標（ゼロエミッション化)を掲げて取り組むこと。

・団地を構成する他の企業との連携により、効率のよい取り組みをおこなうこと。

・可能な限り環境負荷要因を企業間での連携により、工程を内部化(コンビナート化)すること。

・団地内でゼロエミッション化できない点について、共同で周辺の環境系の機能とリンクすることにより、トータルのゼロエミッション化を図ること。

また、具体的方策として団地全体及び個別企業に関して、以下の項目を掲げている。

団地における取り組み

① 企業内で発生する廃棄物を、目標を定めて積極的に抑制。

② 企業内で発生する紙類廃棄物は、団地内企業で再生。

③ 燃焼施設の廃熱エネルギーの再利用。

④ 団地内においては､川崎市入江崎水処理センターの高度処理水及び工場内処理水を再利用。

⑤ 企業内において、水資源はできるだけ循環使用し、排水処理設備の付加を低減。

⑥　焼却灰をセメント原料として再利用。

⑦　企業内で発生する生ごみをコンポスト化し、団地の共同緑地内で肥料として再利用。

⑧　雨水を団地内防火用水や植栽への灌水として利用。

⑨　近隣企業との共同受電による共同受電者間の自己発電の有効利用

個別企業での取り組み

①　天然ガス自動車の使用。

②　工場内の水力発電設備の使用。

③　工業薬品と水の循環使用。

④　難再生古紙(機密文章、ラミネート紙等)のリサイクル。

説明を受けた後、団地内の株式会社三光精工、コアレックス株式会・東京工場を見学した。三光精工は硬質クロムメッキ加工、精密研削加工、超精密仕上げ加工をコアに事業を展開し、ことにめっき加工については三光式循環型クローズドシステムを設立し、廃液を一滴も工場外に排出しないゼロ・エミッションを実現している。

コアレックス株式会・東京工場ではまずトイレットロールの原料とゼロエミッションの仕組みについて説明をうけた後、工場を見学した。同工場では原料の30%がOMP(オフィス・ミックス・ペーパー)、40%が機密文章（箱ごと未開封・無選別で処理)、残りの30%が紙パックであるという。プラスチック、ホッチキス、ラミネート等は各工程で自動除去し、また同工場では家庭排水を再利用し、工場内で使用された水は4段階のタワーでもとに戻し、その流水を利用して発電し、その電気も工場内で利用している。またプラスチックは高温で償却され、その廃熱も蒸気に換え利用され、金属類は製鉄所に送られ、トータルにゼロエミッションが実現されている。

見学の後、川崎エコタウン会館に戻り、NPO 法人　産業・環境創造リエゾンセンター事務局長八木竜一氏（JFE リサイクル推進部総括室主任部員（副部長））ならびに産業・環境創造リエゾンセンターエネルギーWG リーダー中丸正氏（株式会社東芝　社会システム社　水・環境システム事業部参事）から「NPO 法人　産業・環境創造リエゾンセンターの活動について」と題して講演していただいた。

エコタウン事業、リエゾンセンターの包括的論究は町田論文を参照されたい。またコアレックスについては儀我論文、三光精工については湯論文を、リエゾンセンターについては北川論文を参照されたい。

翌 3 日は午前 10 時より、ＮＰＯ法人川崎市民石けんプラントを訪問し、同副理事長石崎娃子氏よりＮＰＯ法人川崎市民石けんプラント・ワーカーズコレクティブ「サボン草」の設立から工場移転も含め、今日にいたる過程を、直面した困難な問題点とその克服の方向性に触れながら講演していただいた。石崎氏から事前に質問提出を依頼されており、当日参加者が提出した質問に対して丁寧なお答えを頂いた。質疑応答は儀我論文に詳しくふれられている。質疑応答の後、工場に移り、集められた廃油から石けんが生産され、パッケージ化されるまで見学した。同プラントの事業については神原論文を参照されたい。

最後になったが、今回の実態調査にあたって川崎市経済局産業振興部新産業創出担当主幹安藤努氏から数々のご高配を賜った。記して感謝申し上げたい。